



其の理由

THE REASON



受付
201.20
キャリアセンター
E

なぜナンバーワンの
建築塗材メーカー
なのか。



エスケー化研は、塗材を始めとする総合建築仕上材メーカーである。街をぐるりと見渡すと、必ずといっていいほどそこには私たちの製品で彩られた建物を見つけることができる。エスケー化研は現在、建築仕上塗材の国内シェア50%以上を占めており、さまざまな地域で圧倒的な存在感を示している。製品も建築外装を中心に、屋根、床、屋上用の建築塗材のほか、特殊塗料、無機化学材料、化学建材など豊富で、幅広さは業界随一。設計事務所など専門分野での知名度が高く、信頼も厚い。さらに、海外でもアジアを中心にエスケー化研のブランド力は強く、多くの実績を積み上げている。まさに、名実共にナンバーワン企業なのである。



なぜ
オンリーワン
なのか。

国内外で数々の特許を持ち、エスケー化研でしか手がけることができない独自の製品も数多い。こうした製品は研究開発はもちろん、営業、生産、施工管理が新たな市場開拓を目指し、それぞれの仕事に真摯に立ち向かってきた証しである。例えば、超低汚染の製品。開発は困難を極めたが、たゆまぬ努力と創意工夫で見事に乗り越え、納得のいく製品として上市。それを営業が知恵を振り絞って新規販路に全力で取り組み、建物の長期的な美観の維持という新しい分野を切り拓いた。困難な事態に遭遇しても決して諦めない。オンリーワンはその積み重ねの結果なのである。



エスケー化研を問う 其の理由

T H E R E A S O N

なぜ最先端なのか。



エスケー化研には大きく分けて6つの部署がある。ここには真のプロフェッショナルが集う。彼ら一人ひとりがプロとして己の技術や技能の研鑽に励み、かし決して独りよがりにならず常に連携することを忘れない。個々の能力に加えて、この秀でたチームワークが相乗効果を生み、エスケー化研の企業力を格段に高めている。その結果として次々と最先端の製品を世に送り出している。もちろん、若手社員にかかる期待も大きい。一人ひとりが壁にぶつかりながらも自らの力で突破し、各人がエスケー化研にはなくてはならない存在として活躍している。



なぜ不可能を
可能にできたのか。



現会長の藤井貴がエスケー化研(当時 四国化学研究所)を創立したとき、「無から有」という言葉をモットーとした。人生においても、会社においても、すべて「無から有」を生むことが大切であり、その継続が成長の糧になる。と、この精神は社員一人ひとりに絶え間なく受け継がれ、後退することなくチャレンジを繰り返す、不可能と思えることも可能にしてきた。耐火被覆材に次々と斬新なアイデアを盛り込み、それをしっかりとカタチにし、市場に投入してきたのも、その一例だ。これからは「無から有」は、エスケー化研の中で根幹的な指針として守り続けていく。



SKK GLOBAL CENTER

なぜエスケー化研 なのか。

エスケー化研の建築仕上塗材の国内シェアは、現在50%以上を誇る。まさにナンバーワンだ。
なぜ、これほどまでにシェアを獲得できているのだろうか。
東京支社長の福岡が解き明かす。

突出していた時代ニーズに即応する力。



取締役東京支社長
福岡 透

工学部応用化学科卒。1982年、入社。本社営業本部に配属となり、開発営業に従事。その後、北陸営業所所長、名古屋支店長を経て、2003年に取締役東京支社長に就任。大阪、名古屋、東京でビッグプロジェクトを経験。NSK支部、日本建築材料協会関東副部長。

エスケー化研の創業は一九五五年。現在の会長（藤井寛）が弱冠二十三歳のとき、「世の中の役に立ちたい」という思いから廃溶剤の蒸留精製とリサイクル事業から始まります。その後、建築部材の乾式化やハウスメーカーの出現により、新しい仕上材が必要となり、シボレックス（ALC）専用塗材として『シボカケン』を開発。以後、高度経済成長の波の中、次々と新製品を発売し、建築業界に欠かすことのできない建築塗材メーカーとして成長しました。

第一次オイルショックのときには、石油系材料が高騰・品薄になり、有機製品をメインとしていた当社は危機に陥るものの、ピンチこそ最大のチャンスと即座に無機への取り組みを強化。セラミタイトイルや『フォームセラボン』といった上質の製品を発表し、耐火被覆分野への進出にも成功しました。刻一刻と変化する時代ニーズを的確かつ迅速につかみ、新たな技術を創出し、それを製品化していく。こうした、時代に対する即応力とメーカーとしてのトータル力がエスケー化研の持ち味であり、オンリーワン企業としての地位を確立していった理由です。バブルのときでも、不動産等の投資に走る企業が後を絶たない中、当社は一切のプレもなく、技術や人への投資を加速させ、ものづくりに集中してきました。だからこそ、バブルが崩壊しても私たちの基盤は揺るぎませんでした。

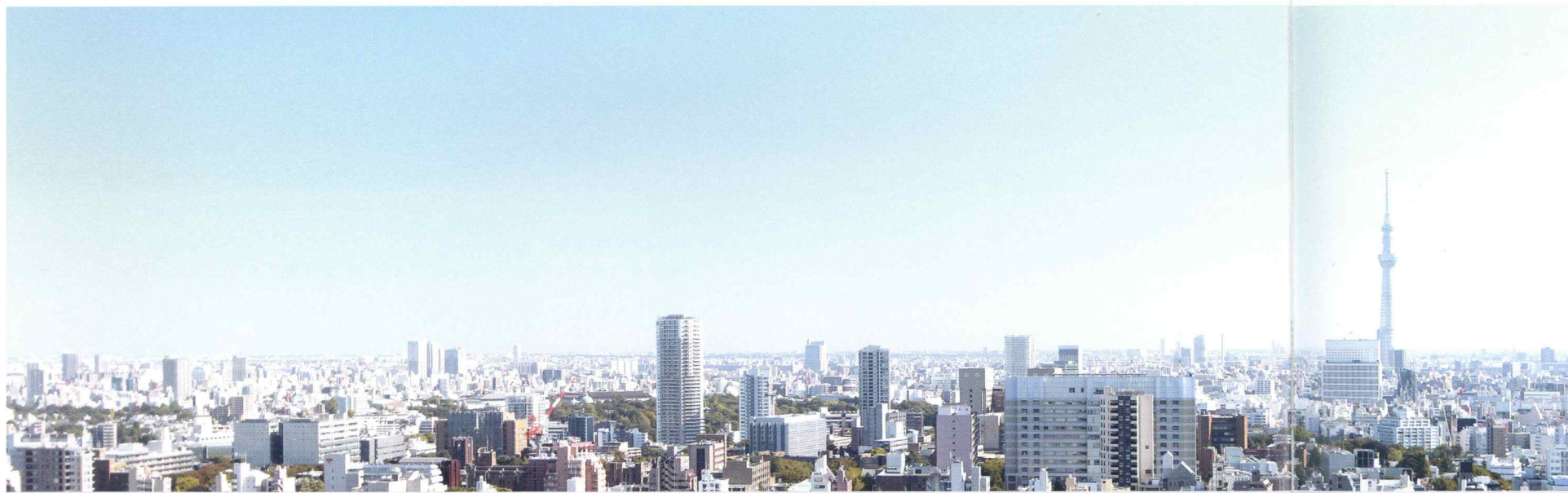
人材育成に関しても妥協を許さず、一人ひとりに対してきめ細かな指導を徹底。若い社員が確実に成長できるよう環境整備に努めてきました。これも、当社躍進の理由のひとつと言えるでしょう。

早くから世界を視野に積極展開。

当社は早くから海外に目を向け、七〇年代からシンガポールを皮切りに海外進出に力を入れ、現在ではマレーシア、中国、香港、タイ、ベトナム、インドネシアに営業拠点を設け、シンガポールや中国、タイ等では最新鋭の工場が休みなく稼働しています。現地の人をしっかりと育成しながら、その地の文化や風土を重んじて、地域に根づいた活動を行い、今では各地で存在感あるメーカーとして確固たる地位を築いています。手がけた物件もマリーナ・ベイ・サンズ（シンガポール）や昆明長水国際空港（中国）、国会議事堂（マレーシア）など多数。これからも海外市場の拡大に努め、独自の製品開発を進めると共に新工法の確立により、グローバルかつオンリーワンの建築塗材メーカー、さらには化学建材メーカーへと発展し、世界に貢献していきます。

世界のランドマークを手がけていく。

二〇二〇年、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。これから数年の間、世界都市東京を代表するスタジアムやホテル、商業ビルなどさまざまなビッグプロジェクトが続々と建設されます。エスケー化研の存在感を全ての物件に高めるべく各種部門が連携してPR活動を行っていきます。私たちに常には常に大型物件、特に「その地のランドマーク」を手がけたいという思いがあります。なぜなら、そうした物件は長らく地図に残り、その威風堂々たる姿を前に子どもたちにも「これが私たちの仕事なんだ」と自信を持って言えるからです。そうした誇りある、夢ある仕事を続けていきたい。だからこそ、これからも世界のランドマークを手がけていくのです。それが私たちの目指すところです。



虎ノ門ヒルズ 森タワー
東京都 港区

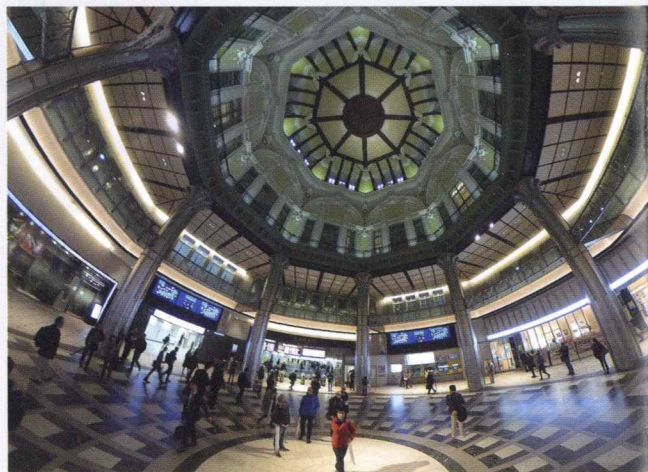
JR セントラルタワーズ、JR ゲートタワー
愛知県 名古屋市



Reflections at Keppel Bay
Singapore



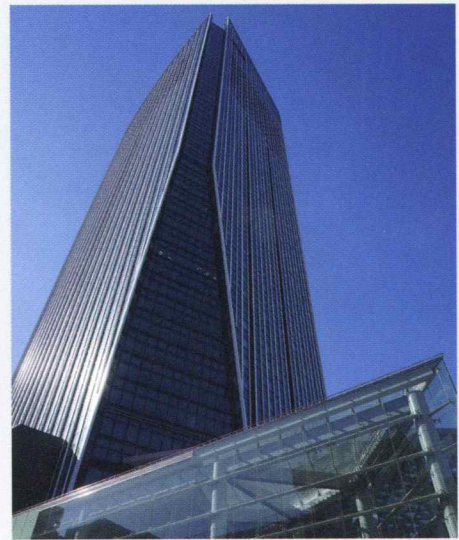
イオンモール徳島
徳島県 徳島市



東京駅 丸の内駅舎
東京都 千代田区



あべのハルカス
大阪府 大阪市



なぜ最先端なのか。

エスケー化研は常に最先端にいる。それは各部門を担う一人ひとりが常に最高の仕事をしようという心がかけている結果である。ここでは、それぞれの部門でどのような仕事を行っているのかを紹介し、エスケー化研が「最先端」にいる理由に迫る。



生産・品質管理の仕事

**ものづくりのベースとなる仕事。
徹底した品質管理で信頼性を高めていく。**

ものづくりの根幹を成す仕事であり、常に最高レベルの製品を創り出すという信念のもと、グローバルスタンダードの基準に沿って原料・工程・製品の各段階で綿密に品質チェックを行っています。それがエスケー化研の、メーカーとしての信頼性を高めているのです。さらに、コストダウンを意識し、常に既存ラインの見直しや機械設備の改良・開発にも果敢に取り組んでいます。



研究開発の仕事

**「無から有」を創造する、
という強い思いをカタチにする。**

ラボでの研究開発から工場での量産スケールまで全工程において一貫して担当するのが、当社の特徴。1人の担当者が技術や知識、アイデアを総動員して実験と検証を繰り返し、一步一步市場が望むカタチにしていくわけです。「無から有」を創り出す、市場にないものを創造していく。その強い思いと揺るぎないプライドが、どこにも真似のできない最先端製品を生み出しています。



営業・マーケティングの仕事

**川上から川下までを網羅。
多彩な営業戦略で顧客獲得を目指す。**

販売店に向けて販売促進活動を展開する部署のほか、デベロッパーやゼネコン、住宅メーカー、設計事務所、オーナーに至るまで活動領域を広げ、製品の指定をもらう(スペックイン)開発営業があります。つまり、商流の川上から川下までを網羅した営業戦略で顧客獲得に取り組んでいるのです。両者は密に連携し、市場動向など情報交換を行うことで、さらなるシェア拡大を目指しています。



施工管理の仕事

**1軒1軒責任を持って施工する、
「責任施工」がお客様の信頼を勝ち取る。**

メーカーとして製品販売のみに留まらず、様々な構造をした建物に対して、施工品質の確認や建築現場の安全確認は勿論、行動品質への要望に応えていくことが使命です。建物の品質向上というニーズから、一層注目を浴びています。日々、新しい現場と出会い、施主の感動に触れ、実績をつくっていく喜びがここにあります。機能性の高い建築仕上材と施工品質によってお客様の信頼を得ています。



国際事業の仕事

**その国・地域の文化や慣習を大切に、
その地に根づいた活動を展開する。**

中国・東アジアをはじめ、その他の東南アジアなど各地で担当チームを結成し、地域・国の文化や慣習を大切に、その場所に根ざした活動を展開しています。そうした真摯な活動がグローバル企業としての地位を確かなものにしていくのです。相手国の代理店への直接販売と当社子会社を通じた営業活動があり、海外志向の若手社員にも活躍の場が広がっています。



管理の仕事

**「人」「モノ」「カネ」「情報」を、
360度さまざまな角度からサポート。**

経理や人事、総務、広報企画といった本社管理部門では、企業活動が正しくかつ迅速に行われるよう、また各人の能力開発やマスメディア対策のための活動を展開するなど、「人」「モノ」「カネ」「情報」を360度さまざまな角度からサポートしています。つまり、エスケー化研の「最先端」を支えている部署でもあり、担当者一人ひとりがものづくり企業の一員として活躍しています。

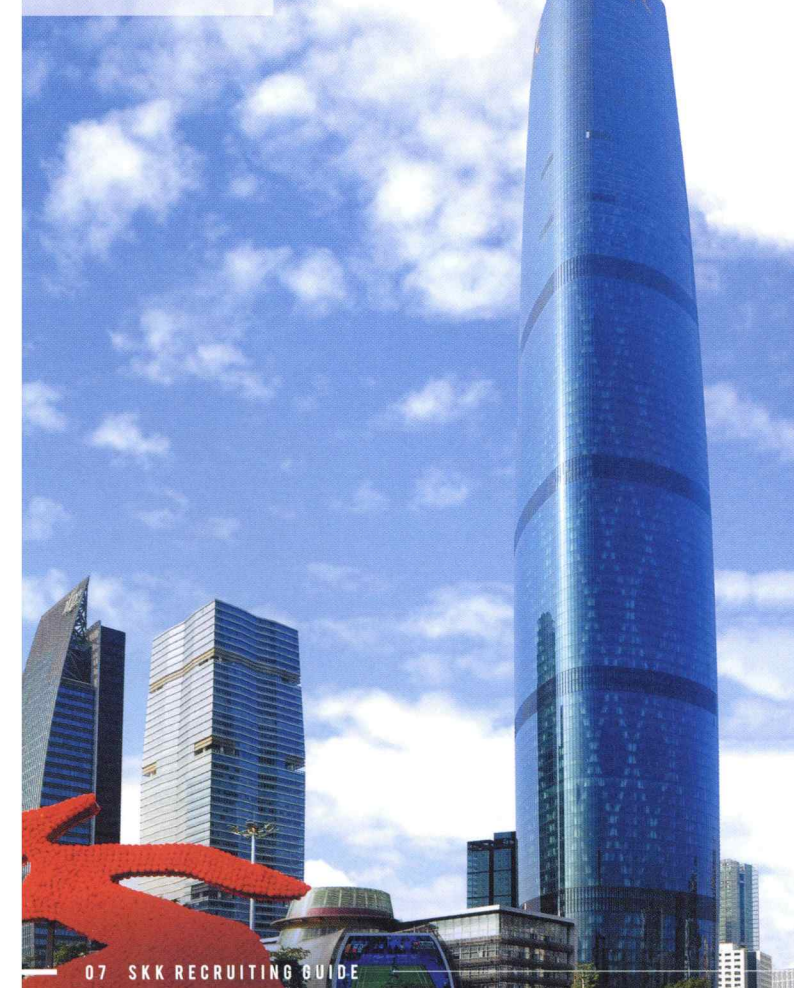


グランフロント大阪
大阪府 大阪市



JR博多シティ
福岡県 福岡市

Shanghai Tower
Shanghai, China



GINZA KABUKIZA
東京都 中央区



The Interlace
Singapore



Mercedes-Benz Arena
Shanghai, China



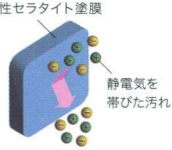
超低汚染塗料 開発チーム

第一技術研究所 ファインケミカルチーム 村辻 朋幸
第一技術研究所 汎用材グループ 杉本 美由紀

外装材は風雨や太陽光線などから建物を保護し、建物の耐久性を向上させるという役割を担うが、メンテナンスの労力軽減等のために汚染しにくい機能もまた必要とされている。ファインケミカルチームでは化学的なアプローチで実験・検証を繰り返し、超低汚染・超耐候無機複合フッ素樹脂塗料「スーパーセラタイトF」など、時代が求めるさまざまな低汚染塗料を開発している。

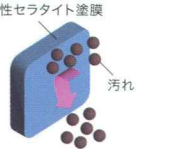
1 汚れが付着しにくい

低帯電性 水性セラタイト塗膜
塗膜表面に帯びる静電気を低減することにより、汚染物質の付着を抑制します。



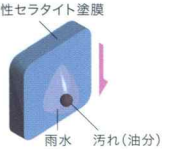
2 汚れが定着しにくい

高い架橋密度 水性セラタイト塗膜
架橋密度が高まったことから、汚染物質の衝突による塗膜変形を減少させ、塗膜への汚染物質の定着を抑制します。



3 汚れが除去されやすい

親水性 水性セラタイト塗膜
水との接触角が低くなったことから、濡れ性(親水性)が向上し、汚染物質の洗浄効果が現れ、汚れが落ちます。



彼ら技術者は先輩から技術や知識だけでなく、「無から有」を成し遂げようとするプライドも確実に伝承されていく。こうして新たなものが創造され、その成果物は市場を席捲し、エスケー化研は唯一無二の企業であり続けることができるのだ。

「プライドの伝承が、さらなるオンリーワンを導く。」
付加価値を追求する。それがエスケー化研の伝統でもある。超低汚染塗料もそのひとつだ。従来製品よりも格段に優れた低汚染機能を有する塗料を開発せよ。そのミッションに挑んだのが村辻だ。彼はその実現には塗料の表面に親水性を保持させることが不可欠だと判断。同時に、作業性や光沢性、耐候性の向上も課題とした。ラボにこもり、原材料の選定、添加量の増減に細心の注意を払い、試作品づくりに没頭した。先輩や上司からの助言を参考に、試験施工のデータを分析し、問題点を抽出しては創意工夫を繰り返した。幾度となく困難にぶつかったが、彼は決して諦めない。なぜなら、彼ら技術者には「どこにもないものを創っていく」という強い信念があるからだ。そうして今、村辻が開発した超低汚染塗料は市場で高い評価を受け、「超低汚染塗料のSKK」ブランドを確立させた。そしてその販売領域を着実に拡大させている。一方、村辻の後輩でもある杉本は、入社1年目から弾性機能を付与した二液水性塗料の開発に着手。弾性とは塗料の柔らかさであり、防水性を高めるのに有効だ。その機能と汚れにくさとの両立を目指し、現在も機能性塗料の開発を行いながら若手社員のフォローを行っている。重責ある仕事に励む杉本。次々と「できない」が「できる」に変わっていく。自分が確実に成長していることを実感しているという。

2つの製品開発ビジネスの現場からオンリーワンの理由を知る

其の理由

なぜオンリーワンなのか。



高意匠性装飾仕上材 営業チーム

東京開発本部 市場開発チーム 本間 啓己
東京開発本部 総合仕上開発チーム 後藤 有佳里
東京開発本部 総合仕上開発チーム 古田 絵美

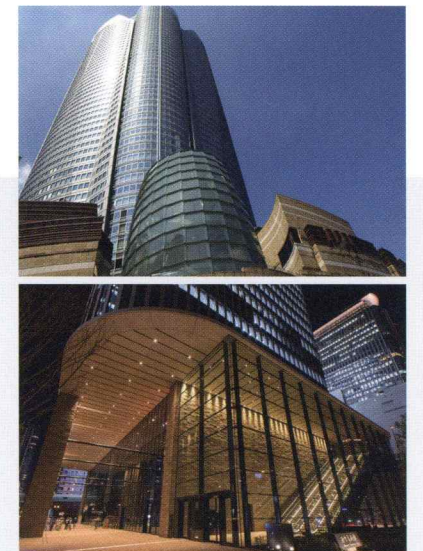
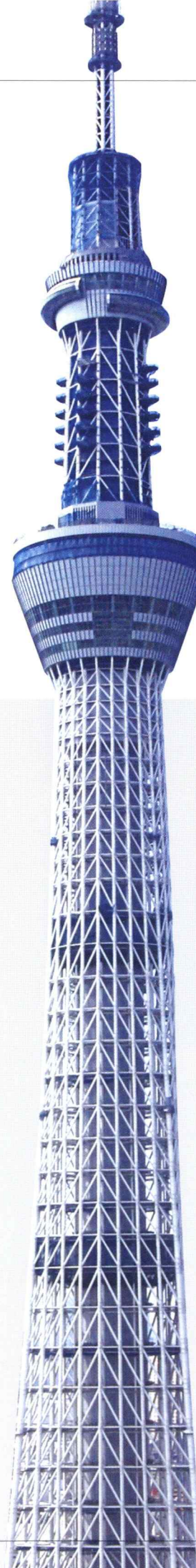


パールの風合いを醸し出し、極上のインテリアとしても機能する内装用パールセラミック調装飾仕上塗料「パールエレガント」や、自然石調が豪華な雰囲気を出す自然石調多彩模様塗料「ニューグラニエレガント」など、商業施設やオフィスビルを彩る数々の高意匠性装飾仕上材をラインナップ。現在、営業メンバーがチームワーク力を活かし、関東エリアの市場開拓を進めている。

諦めない気持ちで新たに市場を切り拓く。
関東エリアの内装に使用される高意匠性装飾仕上材市場において、エスケー化研は後発組となる。しかし、物怖じなどしない。例えば、後藤の場合。すでに本石やタイルの採用が決定していた大型商業施設を、彼女は果敢に攻めた。すると、足繁く通ったことが功を奏し、代替品の提案依頼が舞い込んできた。チャンスを手に入れたのだ。彼女は技術部と連携し、サンプルを作っては現場に提出し続けた。そうして3か月後、施工や設計士、デザイナーから「これでいいこと」とゴーサインが出る。後藤は言う。「当初は無謀な挑戦だと思ったのですが、諦めずに現場に通い続けたことが好結果につながったのだと思います」。この根拠こそがエスケー化研の神髄なのだ。また、後藤と同期の古田はプロジェクトの途中、「サンドエレガント」に防火認定が必要だということが判明し、急ぎよ技術部を巻き込んで開発に乗り出した。結果、「サンドエレガントS」という新製品を生み出すことに成功した。チームリーダーでもある本間は、施工においても苦心したことを明かす。「特にジュエリーシリーズはガラスを得意とする会社の協力が不可欠です。そういう会社とも関係構築をしていかなければならず、そこからのスタートでした。そしてお客さまに提案する場合も、単に製品をPRするだけではなく、実現可能な施工方法も合わせて提案できる常態に検証していました」。関東における高意匠性装飾仕上材は軌道に乗り始めた。今は何よりも採用事例を重ねていくことが大事であり、それが関東エリアでのインテリアの分野でオンリーワンにつながっていく。彼らはそう信じ、今日も仕事に邁進する。

なぜ不可能を可能にできたのか。

耐火被覆材の分野でも、次々と斬新なアイデアを実現化し、新たな道を切り拓いていくエスケー化研。
 まだ見ぬ未来にも強い意志で挑み、難題にも真っ向から挑んでいく。
 失敗を糧にし、幾度でも立ち上がる強い意志と不断の努力が不可能と思われていたことも可能にしてしまう。



画期的耐火被覆材 「セラタイカ2号」、誕生する。

建築物の耐火被覆材としては、従来アスベストやロックウールが使用されてきた。しかし、これら建材は健康被害を引き起こす可能性があることが判明するや、無機分野でも積極的に研究開発を続けてきた。エスケー化研では、今迄の無機分野での研究ノウハウを生かし、それらを使わない耐火被覆材の開発に着手した。そして完成したのが、吸熱効果の高い無機質の材料を主成分にした世界初の「セラタイカ2号」だ。開発を担当していた藤原は「日本にまだ存在しないもので、知見がない分、大変苦労しました」と当時を振り返る。工事管理チームだった増田はこの製品で六本木ヒルズ

の耐火被覆工約12万㎡をやり遂げたのですが、それによって大手ゼネコンや大手設計事務所に、わが社の施工力の高さを認めてもらえたのではないかと思います」と語る。そういう意味でも「セラタイカ2号」は、エスケー化研の新たな躍進につながるひとつの成果だったと言える。

発泡性耐火被覆材

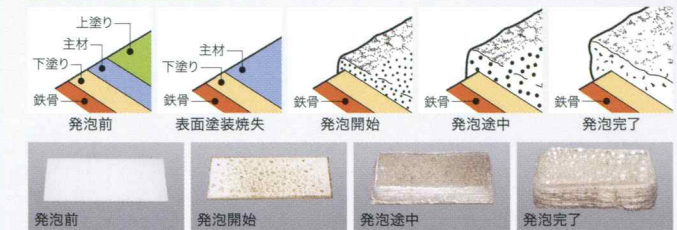
「SKタイカコート」という最先端。

建築業界では武骨な鉄骨にもデザイン性を求めるようになり、特に商業施設や教育機関の建物で「見せる鉄骨」に仕上げたいというニーズが高まってきた。つまり、鉄骨の表面を覆う耐火材に薄くて仕上がりの綺麗なものが必要とされてきたのだ。従来の「セラタイカ2号」では、その要求を充分満たすことができない。ならば、創るしかない。早速、開発部が動き出す。「塗料をコーティングし、炎にさらされると発泡し鉄骨を保護する。この画期的なアイデアをカタチにしようとしたわけですが、当初は自社ラボの電気炉でうまくいっても、ゼネコンの耐火炉では納得のいくデータが得られず、何度も創り直しました。まさに試行錯誤の連続でしたね」と藤原は語る。それでも、やり遂げることを信条とする藤原は、やがて「SKタイカコート」を生み出す。その後は、現場の管理を担う増田に引き継がれた。「塗材は施工が完了して初めて製品と見なされるわけで、施工がとても大事になってきます。「セラタイカ2号」と「SKタイカコート」では成分がまったく違い、施工方法も異なります。ですから施工業者を指導し、育成していくことにも注力しました」。工事営業として現場とゼネコンとの調整役を担う新保も奔走した。「ゼネコンと折衝を行い、工事全体の方向性を決めるのですが、エスケー化研はすでに頼られる存在。だからこそ、適当なことではできません。お客様の期待に応え

耐火被覆材とは？

火災が発生した場合、構造物の崩落を防ぐため鉄骨部分にコーティングする建材のこと。エスケー化研では大きく分けて、セラミック系耐火被覆材「セラタイカ2号」、発泡性耐火塗料「SKタイカコート」、シート型耐火被覆材「SKタイカシート」があり、それぞれ優れた機能を有する。これら建材は、材料販売に留まらず責任施工まで行う。これにより主に国内外のゼネコン他、建築家より高い評価を受け、総合建築仕上材メーカーとしてのエスケー化研の名を更に高めた。

耐火塗料の加熱発泡機構



る。私たちはその一心で営業活動を展開しています。東京スカイツリーの耐火塗装工事を見事に成功させたのも、こうした彼らの努力があったからこそなのだ。

新発想の「SKタイカシート」の完成に業界も驚く。

「SKタイカコート」には高評価が寄せられた。さすがエスケーさんと称賛の声も届く。しかし、そこに甘んじているわけにはいかない。まだまだ工程を短縮できないわけではない。現場熟練作業員が減少するなか、作業効率をもっと高めることができるのではないかと、第二技術研究所の軽賀は熟考を重ね、シート化という斬新な発想にたどり着く。耐火被覆材をシートにして貼りつけるなど世界でも例を見ない。しかし、ないからこそ創る。まさに、それは先人たちがこだわり続けてきた「無から有」の実現だ。そうして軽賀の挑戦が始まった。シート化するには発泡剤を練り込んだ樹脂を圧延するわけだが、そのための設備機械も一から考案しなければならない。コストを意識しながら性能、外觀、物性すべてで納得のいくものに仕上げようとラボで奮闘する一方、機械メーカーと意見交換を繰り返した。前代未聞の挑戦だっただけに思うような結果が出ず、失敗が続いた。それでも軽賀は諦めない。むしろ、燃えてくる。紆余曲折の末、5年後に第1号が完成した。その作業効率のよさから特に現場で絶賛された。もちろん、それで終わったわけではない。その後改良改善を続け、理想のカタチに近づけることに余念がない。軽賀は「SKタイカシート」の開発を任されて、改めて実感したことがあると言っ。新しい道を切り拓く想像力と、前に進むための問題解決力。技術者にはそれが不可欠だということです。エスケー化研を代表する技術者である軽賀のことだ、すでに頭の中では次なる画期的アイデアが浮かんでいるに違いない。

増田 恵次
東京
耐火チーム

軽賀 英人
第二技術研究所
セラミックチーム

エスケー化研
耐火被覆材開発の
パイオニアたち

新保 靖仁
東京開発本部
耐火断熱グループ
営業開発第2チーム

藤原 武士
東京開発本部
耐火技術チーム

なぜ私たちはエスケーー化研を選んだのか。

若手社員が当たり前のように活躍しているエスケーー化研。彼らが入社動機、仕事、目標を語り尽くす。

実績、仕事内容、社風、社会貢献…。入社決め手も十人十色

藤井 みんなはどうしてエスケーー化研を選んだのかな。まずはそのあたりを聞いてみたいと思う。
森本 やはり、業界ナンバー1というのが大きいですが、技術力や製品力が高く、私は営業希望だったので、こういう会社でなら営業として自信を持って仕事ができる。そう思ったことが入社決め手です。加えて「人にも惹かれたい。出会う人がいい人ばかりで、就活中である不安や悩みもあつたのですが、そういうことにも真摯に対応してくれて、素直にこの会社で働きたいと思っただけです。
木元 私もトップメーカーというのが入社を決める際に



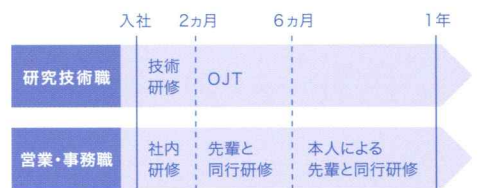
大きなウェイトを占めました。自分が関わった仕事は建物の外観として残っていくこと、地図に残るとい言方もできますが、そこも入社決め手となりました。
森川 私は理系出身ですが、研究職より営業職のほうが向いていると判断し、就活では製薬系や食品系などいろいろな会社を回っていました。その時に合ったのがエスケーー化研であり、単にモノを売るだけでなく、建物の外観やデザインにも関わることができるということに魅力を感じました。
森田 私も森本君と同じく、社員の方がとても気さくで、働きやすそうな会社だと肌で感じたことが大きかったです。さらに、熱い気持ちを持って仕事に挑んでおられ、こういう会社なら私も技術者としてはもちろん、人としても成長できる、そう思っただけです。
藤井 業界の地位や技術力、仕事内容以外にも、社員や社風、雰囲気といった要素がみんなを引きつけたわけだ。研究所の2人はどうか。
橋本 私は大学院で有機合成化学を研究していたことから、ぜひ化学の力で社会貢献をしたい。そんな希望を叶えてくれるのがエスケーー化研でした。しかも、製品ラインナップが豊富であり、それはつまり、製品開発が活発で次々新しいことに挑戦しているということ。研究開発職を望んでいた私にとって、まさに理想的な環境だったんです。
石田 私の場合は「色」に携わりたいたいと思っただけのことから、外観を装う建築仕上材に強く興味を持ちました。建築仕上塗材は建物の美観に直接影響を与え、多くの人の目に留まります。そういう仕事だからこそ、日々誇

りと情熱を持って打ち込めるんじゃないか。そんなふうには思っただけです。
藤井 みんな、いろんな思いで入社を決めたんだね。そして、みんな、着実に成長していることを私も実感している。頼もしい限りだよ。仕事のほうも順調かな。
木元 はい。私は塗料販売店や施工店を訪問し、新規はももちろん、すでに他社製品を使っているところにも積極的に足を運び、製品のPRに努めています。その際、武器になるのがラインナップの豊富さ。施工店からの多種多様なニーズにも的確に応えることができますから。
森本 私は現在、水性ハイブリッドシーラーなど新製品の拡販や大型物件の情報収集に注力しており、またマンション改修物件の物件調査・劣化診断や仕様提案などいろいろなることを手がけています。担当を持って間もないころ、ある施工店様をこまめに訪問していたところ、森本さんはよく顔を覚えてくれて、様々な情報を提供してくれるから」と物件獲得につながったので、あの時の喜びは今も忘れません。これからはお客様第一をモットーに、売上向上はもちろん、利益率を考えた提案をどんどんしていきたいと思っています。
木元 シェアの拡大もだね。
森本 もちろん！
森川 お客様の言葉って本当にうれしいですね。私の仕事は設計事務所やゼネコンの設計部門等にアプローチをかけ、素材や性能、デザイン性などから新規物件に合った製品を提案し、当社製品を指定塗料にしてもらうことです。ですから、指定を受けた時はとてもうれしい

＜ 新入社員教育 ＞

配属後はOJTを中心とした研修で、第一線で活躍できる実力を養成します。

入社後すぐに新入社員研修を行い、配属後は技術者教育や営業員教育を実施。約半年間、先輩社員が実践だけでなく商品知識や技術内容に関しても丁寧に指導し、同時に自主性も育てていきます。実力や意欲に応じてステップアップできるシステムを採用しているので、向上心のある人は確実にレベルアップが図れます。



のですが、完成した建物を見たお客様から「エスケーー化研さんにして正解だった」との言葉をいただいた時はこの仕事をしてよかったと心の底から思えるんです。

藤井 確かに、お客様の声は励みになる。森田さんは品質管理だけど、仕事の魅力ってどこにあるのかな。

森田 品質管理では色差計を使って製品の色を数値化し、基準に合っているかをチェックしていくのですが、製造をはじめ、研究開発や営業とも接点があり、いろんな知識や技術を知る機会が多く、そこがこの仕事の魅力だと感じています。しかも、品質管理は製品の最終確認をする場

ですから責任は大きく、それがやりがいにもなっています。でも、まだまだ上司や先輩のサポートを請うことがあり、今後は知識力の強化に加えて、周りの人たちをも動かしていく行動力を身につけていかなければと思っています。

藤井 品質管理は当社の信頼性を左右する重要なポジション。森田さんのさらなるがんばりに期待していますよ。橋本君は新しいチームに異動したばかりだったね。

橋本 はい。ここでの仕事は新製品開発と既存製品の改良改善なのですが、現在は新しい分野に適用できるような既存製品の改良や新規開発に取り組んでいます。私がメイン担当として、グループリーダーとディスプレイをしながら、課題をひとつずつ解決し進めています。これからはいろんな塗料を扱うことで幅広い技術力や知識を身につけて、研究所だけに留まるのではなく、どんどん外へ出て行き、いざ技術営業的な役割が担えたいと思っています。

藤井 橋本君なら大丈夫。きつそうという人材になれるよ。

若手ものびのびと仕事ができる環境。働きやすさもエスケーー化研の魅力

石田 私は新入社員の後輩と2人で、営業からのニーズをすくい上げて、新しい性能や効果を付加することで新たな販路につながる製品の開発を行っています。また近年は自然災害が頻繁に起こったり、世界情勢が不安定ですが、そういう背景を踏まえ、どんなアクシデントがあっても製品が安定的に生産できるように努めることも私たちの役目です。

藤井 ものづくりの会社としては、殊の外重要な役目だね。石田 そうなんです。入社2年目ながら、こんなにも重

要な仕事に携わることができるともエスケーー化研の特徴でしょうね。
森本 若手社員にも裁量権を持たせてくれて、どんどん責任ある仕事を任せられる。だから、モチベーションも自然とあがるんです。
森川 私も1年目の夏から独り立ちさせてもらったり、また新人でも躊躇なく発言できる雰囲気があるのも当社のよさですね。
森本 言える。だから、若手ものびのびと仕事ができるんだな。
森田 人間関係で悩むってこともないね。
木元 確かに！
橋本 入社してから実感したことなんですけど、働きやすさという点もエスケーー化研の魅力ですね。例えば、リフレッシュ休暇。最長9日間も取得でき、私も友人とフロリダ旅行を満喫してきました。
木元 僕は国内。帰阪して1週間、のんびりと過ごしたよ(笑)
森本 僕は今度ハワイがタイに行くこと思っているんだ。
森川 仕事とプライベートの両立も、みんなしっかりできているわね。私もオフは、学生時代から続けているパレーボールをしっかりと楽しんでいるわ。
橋本 僕は石田君や森本君たちとフットサルで、爽快感を流しているよ(笑)
藤井 みんな、オンもオフも充実しているみたいだね。エスケーー化研の未来は、若手社員にかかっている。これからはチャレンジ精神を大いに発揮して、エスケーー化研を盛り立ててほしい。期待してるよ。



石田 哲也
2018年入社
第一技術研究所
ファインケミカル
チーム

森田 華
2018年入社
大阪工場
品質管理チーム

森川 幸
2018年入社
東京開発本部

橋本 悠介
2017年入社
第一技術研究所
特殊塗料
グループ

森本 峻也
2018年入社
大阪営業所
販売チーム

藤井 訓広
取締役
総務・人事部長

木元 健太
2018年入社
東京第一営業所

SKK CHALLENGE TOPICS

世界の建築文化に貢献

海外の事業拠点は営業所・工場を合わせて40ヶ所以上にも上り、それぞれの国の建築文化の創造に大きく貢献しています。しかも、海外子会社はすべて自社100%出資の会社。現地の従業員も一から丁寧に育てていくのが、企業文化を大切にしているエスケー化研のスタンスです。



衛生的空間を創造

ホルムアルデヒドをはじめとする化学物質が人体に影響を与えることで生じるシックハウス症候群。エスケー化研ではこうした疾患を極力減らすため、ホルムアルデヒド等の有害物質を吸着、分解させる塗料や機能性シート建材を提供。衛生的な空間創造に貢献しています。



挑戦を尊ぶ社風

創業当初よりエスケー化研は製品開発はもちろん、市場や顧客の開拓にも積極的に挑戦し続けてきました。その精神は今も脈々と受け継がれており、若い社員も遠慮なくチャレンジできる環境が整っています。私たちはあなたのチャレンジ精神に大いに期待しています。



安定経営を継続

二度のオイルショックやリーマンショックなど社会変動にも左右されることなく、高い収益率で右肩上がりの経営を続けています。自己資本比率70%が理想とされる中、エスケー化研は80%を越え、無借金経営を継続。超優良企業として広く信頼されています。



省エネを推進

遮熱効果のある機能性塗料を使えば、従来の塗料と比べて最大表面温度は20℃も下がり、室内温度も最大3℃下げることができます。これにより約15%の節電が可能となります。ものづくりを通じて、こうした省エネ対策を推進していくことも私たちの使命のひとつです。



TOP MESSAGE

業界の
トップランナーとして、
各国の建築文化の向上に
貢献していきます。

この入社案内を読んで塗料に対するイメージが変わったのではないのでしょうか。塗料は建物の耐久性等を高めることで建物や構造物など社会インフラを守るだけでなく、無限の色数を通して街の色彩文化の創造にも大きな役割を果たしています。その中で建築塗料のトップメーカーであるエスケー化研が担ってきた部分は、とても大きいものだと思っています。すでに建築仕上塗料の国内シェアは50%を超え、海外においては東南アジアを中心に数々の著名物件を手がけ、エスケー化研の名は世界でも広く知れ渡るようになりました。

会社は現状に満足しては発展も成長もありません。常に前を向いて、新たな道を切り拓いていかなければなりません。メーカーであればなおさらです。当社がこうして着実に発展・成長し、安定経営を続けているのも、社員一人ひとりが創業当時から「無から有」の精神を頑なに守り続け、常に新技術の創造、新製品の開発、新市場の開拓に全力で取り組んできたからこそです。今後も建築文化への貢献を通して社会がよりよくなるよう、建築外装を中心に、床や屋上、鉄部、内装材に至るまで建物をトータルに捉え、独自性の高い、新しい価値観のある建築塗料の創造に挑戦していきます。そして、メイド・イン・ジャパンの技術を駆使して、トップランナーとして各国の建築文化の向上に貢献していきます。そのためにもチャレンジ精神にあふれた若い力が不可欠です。若い人たちをしっかりと育て上げ、塗料業界を引っ張って行く逸材へと成長させていくのも、私たちの使命だと考えています。

代表取締役社長 藤井 実広



会社概要

本社所在地 大阪府茨木市中穂積3-5-25
設立年月日 昭和33年4月17日
資本金 26億62百万円
自己資金 1099億45百万円(2019年3月期)
売上高(連結) 950億69百万円(2019年3月期)
経常利益 116億50百万円(2019年3月期)
株式 証券コード:4628 JASDAQスタンダード
役員 代表取締役会長 藤井 實
 代表取締役社長 藤井 実広
 専務取締役 坂本 雅英
 取締役 藤井 訓広
 取締役 福岡 透
 取締役 伊藤 義之
 取締役 長澤 啓三
 取締役 竹内 正博
 取締役 片岡 秀人
 常勤監査役 本竜 坦道
 監査役 古越 浩二
 濱名 正二

従業員数(連結) 2,177名(2019年3月期)

事業内容 【建築仕上塗料事業】
 各種内外建築用塗料、合成樹脂塗料、
 特殊塗料、無機質系塗料、
 無機質建材の製造販売及び
 特殊仕上工事の請負

【耐火断熱事業】
 不燃断熱材、耐火被覆材、
 耐火塗料の製造販売及び
 耐火断熱工事の請負

【その他の事業】
 新型化学建材、各種化成品、
 省エネ型建材等の製造販売

事業所 支社:東京
 支店:札幌、仙台、東京、千葉、埼玉、
 横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、
 広島、高松、福岡

国内工場 茨城、埼玉、神奈川、愛知、大阪、
 兵庫、福岡

海外工場 中国、シンガポール、マレーシア、
 インドネシア、タイ

研究所 第一技術研究所(大阪)、
 第二技術研究所(大阪)
研修施設 SKKグローバルセンター
他営業所 全国51カ所
**主要な
関係会社** SKK(S)PTE.,LTD.(シンガポール)
 SKK(H.K.)CO.,LTD.(香港)
 H.K.SHIKOKU CO.,LTD.(香港)
 SIKOKUKAKEN(SHANGHAI)CO.,LTD.
 (中国上海)
 SK KAKEN(M)SDN.BHD.(マレーシア)
 SKK CHEMICAL(M)SDN.BHD.
 (マレーシア)
 SK COATINGS SDN.BHD.(マレーシア)
 SK KAKEN(THAILAND)CO.,LTD.(タイ)
 SKK CHEMICAL(THAILAND)CO.,LTD.
 (タイ)
 PT SKK KAKEN INDONESIA
 (インドネシア)
 PT SKK KAKEN KONSTRUKSI
 (インドネシア)
 PT SKK KAKEN DISTRIBUTI
 (インドネシア)

**取引銀行・
証券** (株)りそな銀行、(株)三菱UFJ銀行、
 (株)関西みらい銀行、(株)みずほ銀行、
 三菱UFJ信託銀行(株)、野村證券(株)、
 三菱UFJ証券(株)

関係団体 (一社)日本建築材料協会
 (一社)日本塗料工業会
 (一社)日本塗料協会
 (一社)色材協会
 (一社)日本規格協会
 (公社)日本化学会
 (公社)日本分析化学会
 日本建築仕上材工業会
 粉体工業会
 大阪商工会議所
 茨木商工会議所 他

取引先 大林組、鹿島建設、清水建設、
 竹中工務店、大成建設、積水ハウス、
 大和ハウス、ミサワホーム、住友林業、
 パナホーム、三井ホーム、
 その他全国住宅会社、
 全国塗料販売会社、全国建材販売会社

採用情報

職務内容 国内営業、海外営業、施工管理、
 研究開発、品質管理、生産管理、
 広報企画、総務、経理、情報システム 他

採用数 25名

**採用
実績校** 北海道大、山形大、千葉大、東京農工大、
 金沢大、信州大、岐阜大、三重大、
 名古屋工業大、京都大、京都工芸繊維大、
 大阪大、神戸大、岡山大、広島大、山口大、
 徳島大、九州大、九州工業大、熊本大、
 鹿児島大、大阪府立大、大阪市立大、
 兵庫県立大、筑波大、明治大、学習院大、
 東京理科大、中央大、法政大、日本大、東洋大、
 駒澤大、神奈川大、名城大、中京大、南山大、
 立命館大、同志社大、京都産大、関西大、
 近畿大、甲南大、龍谷大、大工大、
 西南学院大、福岡大 他

初任給 修士卒 250,000円
 学部卒 235,000円
 ※地域手当(首都圏、横浜)は
 別途1万円~2万円を支給

昇給・昇格 昇給=年1回、賞与=年2回、
 決算賞与=年1回
 (賞与3回分 平均7.5ヵ月:2019年度実績)

勤務時間 午前8時30分~午後5時

休日・休暇 月3回土曜、日曜、祝日、夏季、年末年始
 年間休日120日
 年次有給休暇、慶弔休暇、
 育児・介護休暇制度

福利厚生 リフレッシュ休暇(年1回)、
 通信教育(自己啓発制度)、
 冠婚葬祭(結婚、出産祝い、入学祝い(小学校))
 社員持ち株会、健康診断(年1回)、
 保養所(白浜)、寮・社宅制度、
 財形貯蓄制度

連絡先 本社
 〒567-0034
 大阪府茨木市中穂積3-5-25
 人事部
 TEL:072-621-7833
 E-mail:saiyou@sk-kaken.jp



〒567-0034 大阪府茨木市中穂積 3-5-25

TEL.072-621-7833

<http://www.sk-kaken.co.jp>

